

《企画書》

提出者 林紘司 ニック

【本のタイトル】

あなたはAIとどう生きますか？

サブタイトル

13歳からのAIの使い方～ここから始まる思考力～

【概要】

本企画は、人が自分との「絆」をテーマに、その力がもたらす奇跡について考える内容です。自分と他人とを比較したり、自分とAIなどのロボットと比較してしまう時代だからこそ、自分との絆がどのように心を支え、人生を前向きに導いてくれるのか。読者の皆様が、自分との絆と未来への可能性を感じていただければ幸いです。

目次

1. AIとは何か
2. この考え方は大人にこそ感じてほしい
3. AIに見る人生観
4. AIモラリティを高める
5. AIも知らないことは答えられない
6. AIをパートナーに
7. あなたは自分のAI（頭脳）に何を入れますか？

【サンプル原案】

1章: AIとは何か

AI（人工知能）は、「答えのある問題に解を出すもの」と「答えのない問題に解を出すもの」に分けられます。

- 答えのあるもの: ティーカップを覚えさせ、それと同じものを探す。

- **答えのないもの:** ユニコーンにツノを6本生やした画像を生成するなど、創造的な作業。

AIは与えられたデータから学び、イメージや言葉を作り出します。そのため、正しいデータを与えることが重要です。

実験例: 赤ちゃんAIをインターネットに接続した結果、汚い言葉を学習し、粗暴な発言を繰り返すAIが生まれました。これから言えることは、学習するデータがAIのアウトプットを決定するということです。

2章: この考え方は大人にこそ感じてほしい

AIは人間の脳を模倣して作られています。あなたのAIに何を学ばせるかは、あなた自身の選択次第です。

- お金持ちになるためのAI?
- スポーツ解析AI?
- 新しいエネルギーを作り出すAI?

AIを育てることは、自分の脳に知識やスキルを詰め込むことに似ています。

3章: AIに見る人生観

AIの学習プロセスは、膨大なデータを処理し、そこから答えを導き出す作業です。心は持っていないものの、人間に必要なデータを提供することで、自分にとって最適な解を導いてくれる存在です。しかし、人間は大量のデータを受けずとも、子猫を子供に見せるだけで、すぐにそれが子猫であると認識するようになる。違いはあれど、知識を学習することで、答えを導き出せるようになる。

4章: AIモラリティを高める

AIが人類を脅かす存在になる可能性について議論されていますが、それは学習内容に依存します。楽しい未来をAIに教えることで、ポジティブな結果を導き出すことが可能です。

ポイント: AIにどんなデータを与え、どのように使うかが鍵です。

5章: AIも知らないことは答えられない

AIは宇宙や次元といった未知の分野については答えられません。与えられたデータが全てであるため、未知の領域は人間が探求し続ける必要があります。

6章: AIをパートナーに

AIは、大量のデータを解析し、人間をサポートするパートナーとなり得ます。

- 自分専用のAIを設計する楽しさ
- AIとともに新しいことに挑戦する可能性

提案: あなたのAIに何を学ばせたいか、ぜひ考えてみてください。

7章: あなたは自分のAI（頭脳）に何を入れますか？

人間の脳は、学習した内容を基に未来を選択する力を持っています。AIと同様に、あなたが脳に何を学ばせるかで未来が変わります。

- 素晴らしい未来を描くために必要なスキル
- 自分だけのAIを作るプロセス

結論: 学びの選択が未来を創造します。AI（脳）と共存する楽しい未来を目指しましょう。

参考資料

- 幼児に装着したヘッドカメラのデータを用いたAI学習実験（ニューヨーク大学）
- OpenAI GPT-4の学習メカニズム

[以上となります。よろしくお願いたします。]